

SYLLABUS(前期)

授業科目	インテリアデザイン実習	年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。						
教育目標	コーディネーションボードを作成して、プレゼンテーションを行う等、インテリアの総合技能を習得させる。また、設計製図・CAD等と連携して卒業作品を制作させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	概説	インテリア計画の進め方・考え方					
2	住宅の計画（Ⅰ）	住宅のインテリア計画					
3	住宅の計画（Ⅰ）	住宅のインテリア計画					
4	住宅の計画（Ⅱ）	住宅のプランニング					
5	住宅の計画（Ⅱ）	住宅のプランニング					
6	住宅の計画（Ⅲ）	住宅の平面図（間取り図）					
7	住宅の計画（Ⅲ）	住宅の平面図（間取り図）					
8	住宅の計画（Ⅲ）	住宅の平面図（間取り図）					
9	住宅の計画（Ⅲ）	住宅の平面図（間取り図）					
10	LDK空間のインテリア計画（Ⅰ）	家具レイアウト図					
11	LDK空間のインテリア計画（Ⅰ）	家具レイアウト図					
12	LDK空間のインテリア計画（Ⅱ）	コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
13	LDK空間のインテリア計画（Ⅱ）	コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
14	LDK空間のインテリア計画（Ⅱ）	コーディネーションボード 内観パース、仕上材、家具、照明器具					
15	前期まとめ	前期まとめ					
1回配当時間	4時間	2コマ					
使用教科書	インテリアコーディネーター 合格テキスト 新試験対応版、インテリアコーディネーター1次試験過去問題徹底研究 上巻下巻						

SYLLABUS(前期)

授業科目	ビジネスマナーⅡ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容								
教育目標	社会人、企業人としての心得・礼儀作法、マナーについて学ぶ。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	仕事に対する基本姿勢①		組織人として重要な心構え 顧客意識・品質意識・納期意識・協調意識					
2	仕事に対する基本姿勢②		目標意識・改善意識・コスト意識・時間意識 合理的な仕事の進め方					
3	仕事への取り組み①		正確かつ計画的に 1日の計画表の立て方					
4	仕事への取り組み②		仕事のマニュアル化とマニュアル化の意味 スケジュール管理に不可欠なツール					
5	仕事への取り組み③		仕事は効率を考えて処理する 仕事の能率を上げるための身辺整理					
6	社会のルールと勤務条件①		就業規則と職場のルール 勤務条件と労働法とのかかわり					
7	社会のルールと勤務条件②		給与の支払い形態と差引支給額					
8	仕事とIT		パソコンは日常生活に不可欠なツール ネットワークと電子メールの活用、パソコン使用上のルール					
9	ビジネス文書の基本		ビジネス活動に欠かすことのできないビジネス文書 ビジネス文書を作成する際のポイント					
10	社内文書の種類と役割①		社内文書の特色と役割 日常勤務に関する届けや身上の届は書式に従う					
11	社内文書の種類と役割②		伝達文書は社内文書の中でも重要な役割 職種や状況に応じて各種の報告書を作成					
12	社外文書の種類と役割①		会社を代表して書いているという自覚 社外文書として社交・儀礼の文書がある					
13	社外文書の種類と役割②		社外文書の形式					
14	社外文書の種類と役割③		頭語と結語は対応する 時候のあいさつで季節感を添える					
15	社外文書の種類と役割④		前文・末文のあいさつことば 封筒・便箋の書き方・使い方と郵便以外の発送・通信サービス					
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト、就職活動 実践！ワークブック 改訂版							

SYLLABUS(前期)

授業科目	環境工学		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築環境を構成する要因を理解し、快適で健康的な居住空間を構築する手法を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	太陽位置	太陽の運行、時刻の表し方、太陽の位置						
2	日照と日影	日照の確保、日照条件の検討						
3	日射	直達日射と天空日射、方位による日射特性、日射の調節						
4	測光量	視覚、測光量、照明計算の基礎						
5	明視環境の確保	明視条件、グレア、照度の基準						
6	採光	全天空照度、昼光率、採光計画						
7	人工照明	人工光源、照明計画、照明計算						
8	色彩の表し方	色の属性、表色系						
9	色彩計画	色彩の効果、色彩計画						
10	室内空気環境（Ⅰ）	換気の目的、許容濃度、必要換気量						
11	室内空気環境（Ⅱ）	人体からの発生汚染物質と必要換気量、燃焼器具使用時の必要換気量、シックハウス対策としての必要換気量						
12	自然換気の力学	換気量と αA 、風力換気、温度差換気（重力換気）						
13	機械換気の計画	機械換気方式、換気の計画						
14	まとめ	演習問題						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	初学者の建築講座建築環境工学 第三版							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築CAD実習Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	構造の異なる各種図面を、迅速正確に作図する能力と創造性を養成する。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	復習 Jw CAD		基準線から平面図作成までの流れを復習 属性管理の重要性を認識する					
2	図面編集 編集設計		マンションバリエーションの課題					
3	図面編集 リフォーム		バリアフリーの知識を活かした住宅改修					
4	図面編集 外構設計		外構の寸法を知る					
5	ディテールの製図（Ⅰ）		建具寸法の知識と建具の表し方 部品を使用しないで納まりを考える					
6	ディテールの製図（Ⅱ）		階段詳細図と法知識 直列、折り返し、回り階段					
7	ディテールの製図（Ⅲ）		屋根 陸屋根、瓦屋根					
8	住宅の設計（Ⅰ）		木造2階建住宅 配置図 家族構成、敷地条件、法知識					
9	住宅の設計（Ⅱ）		木造2階建住宅 平面図 プランニングと方位学					
10	住宅の設計（Ⅲ）		木造2階建住宅 平面図 平面図の見直し、開口部のチェック					
11	住宅の設計（Ⅳ）		木造2階建住宅 断面図 高さ方向の寸法押さえ、屋根の押さえ					
12	住宅の設計（Ⅴ）		木造2階建住宅 立面図 デザインの観点からみた立面図の作成					
13	住宅の設計（Ⅵ）		木造2階建住宅 各部の整合性確認、図面修正					
14	住宅の設計（Ⅶ）		木造2階建住宅 印刷、パネル作成					
15	住宅の設計（Ⅷ）		木造2階建住宅 講評、まとめ					
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJW-cad第3版、実践ドリルで学ぶOffice活用術、初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築材料		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物に使用される材料の製法、特性、加工法、使用法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築材料の分類		材料学の目的 素材別分類・部位別分類・工事区分別分類・機能別分類・生産別分類					
2	建築材料の性能と性質		物理的特性・力学的特性・科学的性質					
3	建築材料の選択・規格・流通		材料選択の条件と方法 生産と流通の現状					
4	コンクリート（Ⅰ）		セメントの製造方法、種類、化学成分と試験方法、骨材					
5	コンクリート（Ⅱ）		フレッシュコンクリートの性質と調合 硬化の原理と各種試験					
6	コンクリート（Ⅲ）		硬化したコンクリートの性質、強度試験 欠陥コンクリートを作らないために必要な知識					
7	コンクリート既製品		コンクリートブロックの種類と使用箇所 プレキャスト材の種類と特徴					
8	鉄筋及び鋼材		鋼材ごとの製法と性質、炭素含有量と性質 力学的特性と使用法					
9	コンクリート建造物のまとめ		実際にコンクリートが使用されている建築物（教室や周囲の建物）を観察し特徴や問題点を探してその理由や原因を考える					
10	鋼構造建造物のまとめ		実際に鋼構造建造物（自宅や周囲の建物）を観察し特徴や問題点を探してその理由や原因を考える					
11	木材（Ⅰ）		木材の特徴、樹種の特徴 力学的特性					
12	木材（Ⅱ）		木取り法と製材、規格 防虫防腐処理					
13	木質系材料		合板、集成材の特徴と使用法 木質系ボードの特徴と使用法					
14	建築物に使用されている木材のまとめ		身の回りに多用されている木材・木質系材料を調べ、使われている理由と特徴、問題点を考える					
15	非構造材の金属材料		金属の腐食と防食 ステンレス鋼、耐候性鋼					
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、初学者の建築講座 建築材料 第2版							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築士対策講座		年次	2年	前後期	通年	単位	8
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	2級建築士受験に必要な重点内容について演習問題を中心に学習させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築計画（Ⅰ）		環境工学 （気候・気象・空気・光の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
2	建築計画（Ⅱ）		環境工学 （色彩・音・熱の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
3	建築計画（Ⅲ）		計画各論 （住宅・商業建築の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
4	建築計画（Ⅳ）		計画各論 （公共建築物・各部寸法・都市計画の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
5	建築計画（Ⅴ）		建築設備 （給排水・衛生設備の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
6	建築計画（Ⅵ）		建築設備 （空調・換気設備の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
7	建築計画（Ⅶ）		建築設備 （電気・照明・消火設備の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説）					
8	建築計画（Ⅷ）		建築計画の模擬試験実施及び解説					
9	建築施工（Ⅰ）		施工・管理・仮設・地盤調査の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
10	建築施工（Ⅱ）		土工・基礎・鉄筋・型枠・コンクリートの分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
11	建築施工（Ⅲ）		鉄骨工事の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
12	建築施工（Ⅳ）		木工事の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
13	建築施工（Ⅴ）		内装・タイル・塗装工事の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
14	建築施工（Ⅵ）		左官工事・測量・契約・その他の分野のポイント解説及び演習テスト実施・解説					
15	建築施工（Ⅶ）		建築施工の模擬試験実施及び解説					
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築施工Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の工事法や完成、引渡し及びアフターケアなどについて習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	測量（Ⅰ）	距離測量（器具及び測量方法）						
2	測量（Ⅱ）	平板測量（器具及び測量方法）						
3	測量（Ⅲ）	水準測量（器具及び測量方法、その他の測量）						
4	内装工事（Ⅰ）	床工事 （ビニール床シート、ビニール床タイル、ゴム床タイルの材料及び工法）						
5	内装工事（Ⅱ）	床工事 （カーペット敷き、フローリング、張りの材料及び工法）						
6	内装工事（Ⅲ）	壁、天井工事 （石膏ボード張り、直張りの材料と工法）						
7	内装工事（Ⅳ）	壁、天井工事 （合板張り、壁紙張りの材料と工法）						
8	断熱工事	木造及びRC造の断熱材料と工法						
9	タイル工事（Ⅰ）	材料と下地						
10	タイル工事（Ⅱ）	壁タイル張り工法 （密着張り、改良積上げ張り、改良圧着張り）						
11	タイル工事（Ⅲ）	壁タイル張り工法 （マスク張り、モザイクタイル張り、タイル接着剤張り）						
12	石工事	材料と工法 （湿式工法と乾式工法）						
13	塗装工事（Ⅰ）	塗装用語と素地調整						
14	塗装工事（Ⅱ）	塗料の種類と素地の適応						
15	塗装工事（Ⅲ）	塗り工法 （はけ塗り、ローラーブラシ塗り、吹付け塗り）						
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、例解と演習2級建築施工管理技士試験テキスト、建築施工教科書第5版、ビジュアルハンドブック 必携建築資料							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築積算		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築図面その他から各種の経費を算出し、建設費を見積もる方法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	積算の概要		積算とは、積算の種類					
2	工事費の構成		工種別積算方法、部分別積算方式					
3	単価について		単価の種類と要因、単価の決定					
4	数量積算について（Ⅰ）		設計数量、所要数量、計画数量、計測の単位、数値の端数整理					
5	数量積算について（Ⅱ）		積算の区分					
6	土工の数量		各土工事における数量計算					
7	地業の数量		各地業工事における数量計算					
8	コンクリート、型枠の数量		数量の表示方法、計測・計算の留意事項					
9	基礎の計算		各種基礎のコンクリート及び型枠の計算法					
10	上部躯体の計算		各躯体部分のコンクリート及び型枠の計算法					
11	鉄筋の数量計算		数量の表示、鉄筋の種類、計測・計算の共通点					
12	基礎の計算		各種基礎の鉄筋数量の計算法					
13	柱の計算		柱の鉄筋数量の計算法					
14	梁・床板の計算		梁及び床板の鉄筋数量の計算法					
15	壁・階段の計算		壁及び階段の鉄筋数量の計算法					
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、基準に基づく建築積算入門 新訂第4版							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築設計製図Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計管理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築技術者として必要な、建築物の用途・構造に応じた計画の立案力、設計図面の作成要領等を習熟させ、テーマに沿った自由設計を完成させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	鉄骨造 配置図・平面図	鉄骨造の配置計画及び平面計画・立面計画・断面計画の手法と配置図・平面図・立面図・断面図の表現方法・描き方 配置図・平面図・立面図・断面図の作成						
2	鉄骨造 各伏図・断面リスト	基礎伏図・梁伏図・柱梁の配筋断面表の表現方法・描き方 各伏図・断面リストの作成						
3	鉄骨造 基礎配筋図・基礎梁リスト	基礎配筋図・基礎の配筋断面表の表現方法・描き方 基礎配筋図・基礎梁リスト・柱脚取付詳細図の作成						
4	鉄骨造 矩計図	矩計図の表現方法・描き方 矩計図の作成						
5	鉄骨詳細図（Ⅰ）	鉄骨詳細図及び接合部の表現方法・描き方 鉄骨詳細図・H型鋼接合部の作成						
6	鉄骨詳細図（Ⅱ）	前回到続き図面の作成						
7	部分詳細図 仕上表・表紙	パラペット詳細・開口部周り詳細・天井詳細の表現方法・描き方 部分詳細図の作成 部分仕上表・内部仕上表の表現方法・描き方、仕上表の作成、図面の講評						
8	自由設計（Ⅰ） （S造2階建）	課題テーマ（店舗併用住宅）設計条件よりプランニングを行い一式図（配置図、平面図、立面図、断面図、断面詳細図、各伏図、仕上表、面積表）を完成させる。						
9	自由設計（Ⅱ） （S造2階建）	同上						
10	自由設計（Ⅲ） （S造2階建）	同上						
11	自由設計（Ⅰ） （S造2階建）	課題テーマ（コミュニティ施設）設計条件よりプランニングを行い一式図（配置図、平面図、立面図、断面図、断面詳細図、各伏図、仕上表、面積表）を完成させる。						
12	自由設計（Ⅱ） （S造2階建）	同上						
13	鉄筋コンクリート造 配置図・平面図	鉄筋コンクリート造の配置計画及び平面計画の手法と配置図・平面図の表現方法・描き方 配置図・平面図の作成						
14	鉄筋コンクリート造 立面図・断面図 軸組図・断面リスト	立面計画及び断面計画の手法と立面図・断面図の表現方法・描き方 立面図・断面図の作成 軸組図・柱梁の配筋断面表の表現方法・描き方、軸組図・断面リストの作成						
15	鉄筋コンクリート造 各伏図 各種配筋図	基礎伏図・梁伏図の表現方法・描き方、各伏図 基礎配筋図・階段配筋図・スラブ配筋図・壁配筋図・ラーメン配筋図の表現方法・描き方、各種配筋図の作成						
1回配当時間	8時間	4コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、2級建築士試験設計製図テキスト、新しい建築の製図、ビジュアルハンドブック 必携建築資料							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築設備		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	快適な居住空間等を構築するために、必要な各種の設備について原理、構造等を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築設備の概要		建築と建築設備、都市環境と建築設備					
2	建築設備と地球環境		オゾン層破壊と地球温暖化、省エネルギーと建築設備					
3	熱の流れ		熱の移動、熱貫流、外壁の熱取得、円筒管の熱損失					
4	流体の性質と流れ		圧力、ベルヌーイの定義、流体回路と圧力分布					
5	エネルギー交換と熱力学		エネルギー保存と第一法則、水と熱のアナロジー、第二法則と熱力学					
6	省エネルギーシステム		概要、太陽エネルギーの利用、省エネルギー熱源システム					
7	給水設備（Ⅰ）		上水道施設の流れ及び給水方式（水道直結方式）					
8	給水設備（Ⅱ）		給水方式（高置水槽方式、圧力水槽方式、タンクレス加圧方式）					
9	給湯設備		給湯方式と使用器具					
10	排水設備（Ⅰ）		排水の種類と排水処理施設					
11	排水設備（Ⅱ）		排水方式					
12	排水設備（Ⅲ）		トラップの種類、各特徴及び通気方式の種類と各特徴					
13	衛生設備		汚水の浄化方法及び浄化槽の種類と各特徴					
14	ガス設備		都市ガスと液化石油ガス及び器具・配管材料					
15	試験							
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	初学者の建築講座建築設備 第三版、詳解2級建築士 過去7年 問題集							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築法規Ⅱ		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	実務における基準法及び関連法規の運用について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	道路と敷地	道路の定義、接道義務、壁面線 道路による敷地に対する建築制限						
2	用途地域	都市計画法における用途地域指定 各用途地域における建築制限						
3	容積率（Ⅰ）	容積の定義、敷地が2以上の用途地域にわたる場合の限度規定						
4	容積率（Ⅱ）	住宅の地階部分、共同住宅の廊下、空地率、容積率の緩和規定						
5	建ぺい率	建ぺい率の定義、敷地が2以上の用途地域にわたる場合の限度規定、壁面線、防火地域における緩和規定						
6	絶対高さ制限	住居系地域における絶対高さ制限の規定、空地率、大規模敷地面積における緩和規定						
7	道路斜線制限	道における建築物の高さ制限の原則、壁面後退、2以上の道路に接する敷地、公園等に面する敷地、天空率における緩和規定						
8	隣地斜線制限	隣地に対するプライバシー確保の原則、用途地域別の高さ制限、敷地が2以上の用途地域にわたる場合の制限、公園等に接する場合、天空率等における緩和規定						
9	北側斜線制限	当該建築地の北側敷地に対する日照の確保の原則、各用途地域別の高さ制限、北側水面等に接する場合、天空率における緩和規定						
10	日影規制（Ⅰ）	日影規制の適用範囲と対象建築物						
11	日影規制（Ⅱ）	測定方法						
12	防火地域	防火地域、準防火地域における建築物の耐火及び防火制限						
13	総合設計制度	総合設計制度の定義、容積率や高さ規制の緩和						
14	地区と街区の計画	地区計画の概念と建築協定の適用基準						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、図説やさしい建築法規、図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編、ビジュアルハンドブック 必携建築資料							

SYLLABUS(前期)

授業科目	構造力学Ⅱ	年次	2年	前後期	前期	単位	2
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	各種部材の力学的性質、断面性質、部材の変形等について習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	たわみ（Ⅰ）	代表的なたわみの例					
2	たわみ（Ⅱ）	片持ち梁たわみ式、計算の方法 演習問題					
3	変形と不静定構造（Ⅰ）	応力度とひずみ度との関連、各部材のヤング係数					
4	変形と不静定構造（Ⅱ）	不静定梁の反力と応力の計算の方法 演習問題					
5	変形と不静定構造（Ⅲ）	各種不静定梁の反力と曲げモーメントの計算					
6	変形と不静定構造（Ⅳ）	剛度と剛比、分割モーメントと到達モーメント					
7	変形と不静定構造（Ⅴ）	材端モーメントに関する事項、水平力が作用するラーメンの応力及びその計算の方法 演習問題					
8	変形と不静定構造（Ⅵ）	不静定ラーメンの曲げモーメント及びその計算の方法 演習問題					
9	塑性解析（Ⅰ）	弾性と塑性、静定構造の崩壊と全塑性モーメント					
10	塑性解析（Ⅱ）	不静定構造の崩壊と崩壊荷重、崩壊荷重の計算の方法					
11	塑性解析（Ⅲ）	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力					
12	部材の設計（Ⅰ）	曲げ材についての構造計算及び設計法 演習問題					
13	部材の設計（Ⅱ）	引張り材についての構造計算及び設計法					
14	部材の設計（Ⅲ）	圧縮材についての構造計算及び設計法 演習問題					
15	試験						
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	図説やさしい構造力学、基礎から学ぶ建築構造設計 基本式の理解と活用、ビジュアルハンドブック 必携建築資料						

SYLLABUS(前期)

授業科目	鉄筋コンクリート構造	年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目		○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	鉄筋コンクリート構造の特徴と使用材料の性質を理解し、安全で耐震性を有する建築物を構築するための、構造設計の基礎を習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	RC構造物の特徴	RCの歴史 RC構造物を身近に見つけ構造的な特徴について考える					
2	RC構造物の材料の特性（コンクリート）（Ⅰ）	セメントの特徴、使い方、骨材との関係 コンクリートを構成する材料の種類と特徴を把握する					
3	RC構造物の材料の特性（コンクリート）（Ⅱ）	フレッシュコンクリートと硬化後のコンクリートの性質を理解し施工と関連させて欠陥のないコンクリート打ちについて考える					
4	RC構造物の材料の特性（鉄筋）	鉄筋の種類と特徴、計算方法 実務的な鉄筋の使われ方を知る					
5	RCの材料特性	許容応力度の考え方、計算方法 圧縮、引張、剪断、付着					
6	曲げを受ける部材の設計（単筋梁）	曲げ材の応力状態と断面保持の仮定 鉄筋の役割と応力度					
7	曲げを受ける部材の設計（複筋梁）	曲げ材の応力状態と断面保持の仮定 鉄筋の役割と応力度 釣り合い鉄筋比					
8	曲げを受ける部材の設計（塑性設計）	梁の塑性設計の考え方					
9	軸力と曲げを受ける部材の設計（Ⅰ）	軸力と曲げを同時に受ける部材の応力状態と断面保持の仮定 鉄筋の役割と応力度					
10	軸力と曲げを受ける部材の設計（Ⅱ）	必要な鉄筋量の求め方					
11	軸力と曲げを受ける部材の設計（Ⅲ）	柱の塑性設計の考え方					
12	梁、柱の構造規定	建築基準法上の規定、注意事項など 演習問題					
13	梁及び柱の剪断補強（Ⅰ）	剪断力が生じる場所 剪断力の計算					
14	梁及び柱の剪断補強（Ⅱ）	剪断力に対する補強計算					
15	梁と柱の設計まとめ	梁と柱の実務的な設計演習					
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	RC規準による鉄筋コンクリート構造設計 改定版、初めての建築一般構造						

SYLLABUS(前期)

授業科目	鉄骨構造		年次	2年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	鉄骨の力学的性質を把握させ、各荷重による応力、変形等の特性を理解し安全で耐震性の高い構造設計の基礎を習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	鉄骨構造の概要		鉄骨構造の特徴、架構の形成、鉄骨骨組の構成					
2	鋼材（Ⅰ）		鉄と鋼、化学成分と鋼、鋼材生産、鋼材の性質					
3	鋼材（Ⅱ）		構造用鋼材の材質と形状					
4	鉄骨の構造設計（Ⅰ）		構造設計の概要、鋼材の許容応力度（長期応力に対する許容応力度）					
5	鉄骨の構造設計（Ⅱ）		鋼材の許容応力度（短期応力に対する許容応力度、繰返し応力に対する許容応力度）					
6	鉄骨の構造設計（Ⅲ）		たわみの限度、材料定数					
7	引張材の力学（Ⅰ）		概要、引張材の検定、引張材有効断面積					
8	引張材の力学（Ⅱ）		偏心引張材、引張材に対する注意、引張材有孔板の有効断面積					
9	圧縮材の力学（Ⅰ）		圧縮材の概要 単一圧縮材（オイラー座屈、短柱の座屈、許容圧縮応力度）					
10	圧縮材の力学（Ⅱ）		単一圧縮材（材端支持方式の異なる圧縮材、部材の座屈長さ、支点の補剛）					
11	圧縮材の力学（Ⅲ）		組立圧縮材（せん断変形と座屈強度、有効細長比、つづり材、組立圧縮材の構成上の注意）					
12	圧縮材の力学（Ⅳ）		局部座屈（板要素の座屈）					
13	圧縮材の力学（Ⅴ）		局部座屈（幅厚比の制限）					
14	圧縮材の力学（Ⅵ）		曲げモーメントを受ける圧縮材					
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	詳解2級建築士 過去7年 問題集、鉄骨構造基礎知識 第3版、初めての建築一般構造							